

## 社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2023. 8  
No.360

### 『千に一つの奇跡をつかめ!』千本倅生 著

良い本を見つけました。我々が師と仰ぐ稲盛和夫氏を動かした“千本氏”の話です。

京セラの稲盛さんを中心に第二電電からKDDIの創業を成し遂げた人達の実話です。今回、稲盛氏から学ばれた事を紹介させていただきます。稲盛氏から学ばれた事を紹介させていただきます。稲盛氏から学ばれた事を紹介させていただきます。稲盛氏から学ばれた事を紹介させていただきます。

「思考に気をつけなさい、いつか言葉になるから。言葉に気をつけなさい、いつか行動になるから。行動に気をつけなさい、いつか習慣になるから。習慣に気をつけな

さい、いつか性格になるから。性格に気をつけなさい、いつか運命になるから。

「聖女マザー・テレサ」(千本、2023)

我々も、ついネガティブになりマイナスな言葉を発してしまうことがあります。それを

“失言”と言つて撤回される方もいますが、その人の心のどこかにそのような考え方があ

るから口から出てしまうものと考えます。火の気のないところに煙は立ちません。

マザー・テレサの言うように、常に、  
“言葉に気をつける” そうすると行動が変わつて“運”がついてくる。まさにその通りと考えます。

### 最初に水に飛び込む

「ファーストペンギン」になれるか

エサをとり、海に飛び込む時と同じで、群れは互いにけん制するような仕草を見せるだけで、最初の一羽が飛び込むまで行動を起こさな

逆にいえば、シャチャやヒョウアザラシといった天敵がいるかもしれない未知の海に真っ先に飛び込む一羽、すなわち

“ファーストペンギン”の勇氣、果敢なチャレンジ精神、そのベンチャースピリットは、称えられてしかるべきものなのです。  
(千本、2023)

イナテックの社長塾でよく話すのは、例えば熱中症で倒れた人や仲間がいたとします。

その時、一歩前へ出て応急処置を即するか、一歩下がって皆の様子を見てしまうのか、答えは一つ。率先して、まず一歩踏み出して行動すること。その行為が仲間の生命を助け救うことになるからです。イナテック社員は常にイメージトレーニングをすることによって、行動することが出来ると信じています。

西洋のことわざに「卵を割らないとオムレツはつくれない」というのがありますが、私はその卵を最初に割ったおっちゃんよのピエロであると同時に、勇氣あるフ

アーストペンギンであったのかもしれない  
せん。(千本、2023)

### 「迷ったら進む」を信条に人生を歩む

現状維持は後退である、と言うビジネス上の教訓がありますが、もしそうなら、その現状を保つためだけに少しの前進が必要になってきます。

常に少し前へ進んでこそ、現状維持も可能になる。すなわち、迷ったら(迷わなくても)一歩でも前へ進まない、その場にとどまることすらできないのです。

(千本、2023)

イナテックもややもすると、今のままでいい。『変えるのは嫌だ』『変えるのは面倒くさい』等々聞かされてくることがあります。この千本氏の言うように「迷ったり・迷わなくとも一歩前進」これに尽きると思います。行動する前から『ああでもない、こうでもない』

い』とやらない・やれない事ばかり言っている人がいます。

まずはやってみて、失敗しても良いではないですか。『失敗も前進』の一つなのです。何もしないのは『ゼロ』。失敗はイチなのです。さあイナテック社員諸君！ 行動しよう。

### 万策尽きたところから

#### 「ワンモア・トライ」せよ

「やってみるのは学ぶことにまきっている」(スイスの哲学者ヒルティの言葉)。動けば、私たちはそれだけ答えに近づくのです。

まして、それが生きたビジネスの世界のことであれば、机の前で理屈をこねまわしている、いい答えは見つかりません。デスクまわりで思案の頭をひねるヒマがあったら、現場へ出て自分の目で見る、自分の足で歩く。そんな行動力が必要になってくるのです。答えは現場にある。最適解は行動から導かれる。(千本、2023)

イナテックでよくあるのは、例えば不良対策などを行っていることです。なぜかと言うと『真因が明確でない』現象のみで対策と銘打っているのです。

「現場を見たか」と言えば、現場を見ていない。「機械をバラして観察したか」と言えば、やっていない。「どれくらい汚れて作動不良を起しているのだ」と聞けば、分かりません。これらすべて現場を「観」ていない。ただ「見」ているだけなのです。

今一度、『答えは現場にある。最適解は行動から』を教訓に実行しよう。

「これはいける」という直感が  
的中するのはなぜなのか

直感やひらめきについては、いろいろな意見があります。単なる偶然で虫の知らせのような非論理的なものにすぎないという人もいれば、知識や経験の蓄積のなかから瞬間的にすくいとられる英知の断片のようなものではないかという人もいます。あるいは、それはまさに天からの

啓示Ⅱ天啓であり、だからこそ直感というものは物事の本質に最短距離、最短時間で到達できるのだという人もいます。

個人的には、それは人間の「よい心、よい行い」に反応して、天が送ってくれるシグナルのようなものだと考えています。

たとえば、世のため、人のためにという利他の心、社会貢献のために大きな目標を果たそうとする高い志。そうしたよい心や正しい行いのありように「大きな意思」が反応して、私たちに進むべき方向や問題の解決策などをちらりと垣間見せてくれる。瞬間的ではあっても明示してくれる。

それが直感であり、ひらめきであるのではないかと思うのです。(千本、2023)

私が思うに、直感は大切にして欲しい。但し単なる思い付きではなく、千本氏が言ってみえる「知識や経験の蓄積のなから瞬間的にすくいとられる英知の断片」ではないかと思えます。何も知識のない人は、せいぜい沢山の情報を頭に叩き込み訓練の必要があると思えます。

その上での直感・五感(目・耳・鼻・舌・触)を大切にするとともに直感・五感を常に磨いておく必要がある。つまり自分で『仮説を立て検証する』癖付けをすることによって磨かれるものなのです。

それが「最短距離・最短時間で到達」できることにつながるのだと思います。

今イナテックにおける両利き経営にもスピードが必要条件だと考えております。

もつともつとスピードを上げるためにも自分の頭で考え行動を起こす。『ファーストペンギン』になることと同義語です。

我々の今描いている構想は間違っていない。自身を持って一歩前へ行動しようではありませんか。

#### 参考文献

千本倅生(2023)『千に一つの奇跡をつかめ!』

サンマーク出版

#### 菜根譚後集 九一

萬籟寂寥中、忽聞一鳥弄聲、便喚起許多幽趣。萬卉摧剝後、忽見一枝擢秀、便觸動無限生機。可見、性天未常枯槁、機神最宜觸發。

一、<sup>ばんらい、さびしう</sup>萬籟寂寥の中、<sup>たまニ</sup>忽ち一鳥の弄聲を聞けば、<sup>すなわ</sup>便ち許多の幽趣を喚び起こす。<sup>ばんき、さい、たう</sup>萬卉摧剝の後、<sup>ち</sup>忽ち一枝の擢秀を見れば、<sup>よ</sup>便ち無限の生機を触れ動かす。見るべし、<sup>ホ</sup>性天未だ常には枯槁せず、<sup>キ</sup>機神最も宜しく觸発すべきを。